

平成23年度

1 級造園施工管理技術検定

学科試験・問題 A

次の注意をよく読んでから始めてください。

〔注 意〕

- この問題用紙は学科試験の問題 A です。表紙とも 10 枚、36 問題あります。
- 問題はすべて必須ですから、36 問題全部を解答してください。
- 解答用紙（マークシート）には間違いのないように、試験地、氏名、受験番号を記入するとともに受験番号の数字をぬりつぶしてください。
- 解答は、解答用紙（マークシート）に HB の鉛筆又は芯が HB のシャープペンシルで記入してください。

解答用紙は

問題番号	解答記入欄			
問題 1	①	②	③	④
問題 2	①	②	③	④
問題 10	①	②	③	④

となっていますから、

当該問題番号の解答記入欄の正解と思う数字を一つぬりつぶしてください。

解答のぬりつぶし方は、解答用紙のぬりつぶし例を参照してください。

なお、正解は 1 問について一つしかないので、二つ以上ぬりつぶすと正解としません。

- 解答を訂正する場合は、プラスチック消ゴムできれいに消してから訂正してください。
消し方が不十分な場合は、二つ以上解答したこととなり正解としません。
- この問題用紙の余白は、計算等に使用してもさしつかえありません。
ただし、解答用紙（マークシート）は計算等に使用しないでください。
- 解答用紙（マークシート）は、必ず係員に渡してください。持ち帰りは厳禁です。
- この試験問題は、試験終了時刻（12 時 30 分）まで在席した方のうち、希望者に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席した場合は、持ち帰ることはできません。

※ 問題はすべて必須ですから、36 問題全部を解答してください。

〔問題 1〕 西洋庭園に関する「様式」、「技法」、「主な庭園」の組合せとして、**適当でないもの**はどれか。

(様式)	(技法)	(主な庭園)
(1) イギリス風景式庭園	ハハア	ストウ園
(2) フランス平面幾何学式庭園	カナル	エステ荘
(3) スペイン—サラセン式庭園	パティオ	アランプラ宮苑
(4) イタリア露壇式庭園	カスケード	ボボリ園

〔問題 2〕 日本庭園の歴史に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 平安時代には、貴族の邸宅に、海、野の風景などの自然風景を表現した苑池、野筋や遣水のある寝殿造り庭園が作庭されるようになった。主な庭園の1つとして、仙洞御所庭園がある。
- (2) 室町時代には、禅宗の自然観を反映して、石組を主体として、白砂、コケ、刈込みなどで自然景観を象徴的に表現する枯山水式庭園が作庭されるようになった。主な庭園の1つとして、大徳寺大仙院庭園がある。
- (3) 安土桃山時代には、巨大な庭石や色彩豊かな色石などを使った石組を中心とした庭園が作庭されるようになった。主な庭園の1つとして、醍醐寺三宝院庭園がある。
- (4) 江戸時代には、大規模な池泉を中心に、露地や枯山水の様式を総合し、園内をめぐることのできる池泉廻遊式庭園が作庭されるようになった。主な庭園の1つとして、桂離宮庭園がある。

〔問題 3〕 土壤に関する記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) pH は、土壤の化学性を特徴づける基本的な項目で、水素イオン濃度が高いほど pH は高くなり、一般に、植物の生育に適している pH は、8.0～9.0 である。
- (2) 土性は、土壤粒子中の粘土、シルト、砂礫の重量組成割合により区分するが、一般に、埴土は、壤土に比べ植物の生育に適している。
- (3) 土壤水のうち、植物が吸収可能な有効水は、土壤中の毛管孔隙を上下している毛管水と、土壤粒子表面に吸着している吸湿水である。
- (4) 土壤の透水性は、長谷川式簡易現場透水試験器で測定でき、一定時間後における水位の低下が安定したときの最終減水能が 100 mm/hr より大きければ植栽基盤として「良好」と判定される。

〔問題 4〕 土壤と窒素に関する記述のうち、適当でないものはどれか。

- (1) 土壤空気の組成は、微生物や植物根の呼吸等により不安定であるが、大気と比べ、一般に二酸化炭素濃度、窒素濃度ともに低い。
- (2) 土壤中の窒素は、大部分が有機態窒素で存在し、土壤微生物等により分解され無機態窒素に変化することにより、植物に利用吸収される。
- (3) 窒素肥料を過剰に与えられた植物は、葉色は濃緑色になり生育は旺盛になるが、茎葉が軟弱になり、病虫害の被害を受けやすく、熟期が遅れたりする。
- (4) 根粒菌は、ニセアカシアやネムノキ等のマメ科植物と共生し、大気中の窒素を固定する。

〔問題 5〕 樹木の病害に関する次の記述の (A), (B) に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「(A) はカビが原因で起こる病気であり、発症した樹木では (B)」

(A)

(B)

- (1) モザイク病 —— 葉や花弁に色の濃淡のモザイク症状や、壞疽斑が現れ、さらに、葉身のよじれや奇形葉等が生じる。
- (2) 炭疽病 —— 葉や幼茎枝に黒褐色、褐色等の円形、不整形の病斑を生じ、病斑上に小黑点を形成することが多い。
- (3) 白紋羽病 —— 葉の表面や裏面が白色で粉状の菌子で覆われ、また、病原菌の種類や樹種により、褐色や紫褐色を呈するものがある。
- (4) こぶ病 —— 枝の一部が膨らんでこぶ状となり、その先から不定枝が多数ほうき状に放生する。

〔問題 6〕 植生に関する記述のうち、**適当なもの**はどれか。

- (1) 潜在自然植生とは、その地域の環境条件のもとで、間伐等の人為的行為により、種組成や構造が安定した植生をいう。
- (2) 先駆植物とは、遷移の初期において、はじめに裸地に侵入し繁茂する植物であり、一般に、貧栄養で劣悪な環境条件に耐える陰性のものが多い。
- (3) 二次林とは、自然林が伐採や山火事等で破壊された後に自然に成立した森林であり、これらの多くは、萌芽更新等による薪炭林などとして、活用されてきた。
- (4) 代償植生とは、その地域の環境条件のもとで、人間の影響がなくなった場合に成立すると推定される植生をいう。

〔問題 7〕 花壇に用いられる植物に関する組合せとして、**適当なもの**はどれか。

- (1) 春播き一年草 —— ケイトウ、ニチニチソウ、ヒアシンズ
- (2) 秋播き一年草 —— パンジー、ムスカリ、ワスレナグサ
- (3) 球根類 —— インパチェンス、クロッカス、スイセン
- (4) 宿根草 —— キキョウ、ハナショウブ、マツバギク

〔問題 8〕 造園樹木に関する記述のうち、**適当なもの**はどれか。

- (1) ヤマボウシは、常緑広葉樹であり、白色の花をつける。
- (2) エゴノキは、常緑広葉樹であり、白色の花をつける。
- (3) ガマズミは、落葉広葉樹であり、紅色の実をつける。
- (4) ソヨゴは、落葉広葉樹であり、紅色の実をつける。

〔問題 9〕 造園樹木の開花期に関し、早春から秋にかけて開花する順に並べた樹木の組合せとして、**最も適当なもの**はどれか。

- (1) クチナシ → ジンチョウゲ → ウツギ
- (2) ヤブツバキ → サトザクラ → キョウチクトウ
- (3) ネムノキ → ハナミズキ → ドウダンツツジ
- (4) キンシバイ → レンギョウ → ヤマブキ

〔問題 10〕 石材に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 花崗岩は火成岩であり、大材が得られやすく、結晶の大きさや色により種類がある。主な石材として、稲田石がある。
- (2) 玄武岩は火成岩であり、冷却固結するときに柱状節理を生じることが多い。主な石材として、六方石がある。
- (3) 安山岩は火成岩であり、石質は堅硬で圧縮強さが大きい。主な石材として、鉄平石がある。
- (4) 大理石は火成岩であり、耐酸性に劣るが、磨くと美しい光沢を生じる。主な石材として、万成石がある。

〔問題 11〕 コンクリートに関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) コンクリートのワーカビリティは、骨材の粒度・粒形、コンクリートの配合や温度、練混ぜ方法などによって変化する。
- (2) 骨材のうち、細骨材は、10 mm 網ふるいを全部通り、5 mm 網ふるいを質量で 85 % 以上通る骨材をいう。
- (3) コンクリートの曲げ強度は圧縮強度に比べて小さく、その値は圧縮強度の 1/5 ～ 1/8 程度である。
- (4) 一般に、同じ水セメント比のコンクリートであれば、粗骨材に川砂利を用いた場合には碎石を用いた場合よりもコンシステンシーは増大する。

〔問題 12〕 造園樹木の支柱に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 歩道の植樹帯に植栽する樹高 3.0 m、幹周 0.12 m のソメイヨシノに添え柱支柱を用いた。
- (2) 公園の広場の植込み地に植栽する樹高 7.0 m、幹周 0.60 m のケヤキにワイヤー張り支柱を用いた。
- (3) 公園の広場の植込み地に植栽する樹高 3.5 m、幹周 0.18 m のトチノキに竹 3 本の八ツ掛支柱を用いた。
- (4) 歩道の植樹帯に植栽する樹高 5.0 m、幹周 0.50 m のクスノキに十字鳥居型支柱を用いた。

〔問題 13〕 造園樹木の移植に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 移植不適期に落葉樹を移植する場合は、鉢に土を付けて掘り回し、土を落とさないよう「根巻き」を行うのがよい。
- (2) 根鉢の種類は、根系の状態により異なり、浅根性の場合は皿鉢、深根性の場合は貝尻、中庸のものは並鉢とするのが普通である。
- (3) 植え穴の大きさは、直径は根鉢の約 1.5 倍程度、深さは根鉢よりやや深めに掘り、客土とのなじみをよくするため、底面や側面は特に滑らかに仕上げなくてもよい。
- (4) 土極めて埋め戻した場合は、水鉢は切らないが、水極めて埋め戻した場合は、水鉢を切り、活着後でもできるだけ長く残しておくのがよい。

〔問題 14〕 造園樹木の剪定に関する記述のうち、**適当なもの**はどれか。

- (1) 落葉樹の冬期剪定は、生長が止まっているので樹形の骨格をつくるための剪定は避け、軽い剪定にとどめるのがよい。
- (2) 枝抜き剪定は、主として込み過ぎた枝の中透かしのために行い、樹形、樹冠のバランスを考慮しつつ、不必要な枝の付け根から切り取る。
- (3) 生垣の刈込みは、裾を美しい線に保つため、下枝を強く、上枝を弱く刈り込むようにする。また、時には深く切戻しを行って、不定芽の萌芽を促すとよい。
- (4) 切詰め剪定は、主として樹冠を小さくするために行い、枝の適正な分岐点において長いほうの枝を付け根から切り取る。

〔問題 15〕 当年枝に花芽分化し、翌年に開花する花木の組合せとして、**最も適当なもの**はどれか。

- (1) ハナミズキ、ボタン
- (2) キンモクセイ、クチナシ
- (3) サザンカ、ムクゲ
- (4) サルスベリ、ドウダンツツジ

〔問題 16〕 芝生の造成及び管理に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) ブラウンパッチは、ベントグラス類の芝生で高温多湿時に発生する病害で、土壤伝染する。
- (2) 整地に伴う基肥は、張芝の場合には必ずしも必要ではないが、植芝の場合は、その後の生育を促進し、早く、密な芝地とするために基肥を行う必要がある。
- (3) 芝草は、一般に、弱酸性から中性の土壤でよく生育し、それ以下になると肥料の効きが悪くなるので、土壤が強酸性の場合は、ピートモス等を用いて土壤改良を行う。
- (4) カリは、芝草の発根や耐暑性、耐病性などの環境抵抗性を高める効果があり、その要求量は窒素に次いで高い。

〔問題 17〕 日本庭園の役木に関する次の記述の (A), (B) に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「(A) は、灯籠の明かりがその枝葉で見え隠れするように配植される樹木で、枝葉がしなやかな落葉樹が主に用いられる。(B) は、池泉にのぞくように枝を伸ばし、水面と地表が連絡しているように植栽される樹木で、キャラボク、ハイビヤクシンなどを用いることもある。」

(A) (B)

- (1) 灯籠控えの木 —— 流枝の松
- (2) 灯障りの木 —— 流枝の松
- (3) 灯障りの木 —— 飛泉障りの木
- (4) 灯籠控えの木 —— 飛泉障りの木

〔問題 18〕 B.M. (標高 20.00 m) と測点間の水準測量を行った結果、下表に示す数値を得た。

測点 No.2 の地盤高として、**正しいもの**はどれか。

ただし、誤差はないものとする。

測点 No.	後視 B.S. (m)	前視 F.S. (m)
B.M.	1.75	
1	1.83	2.26
2	1.92	2.54

- (1) 18.78 m
- (2) 18.95 m
- (3) 21.05 m
- (4) 21.22 m

〔問題 19〕 飛石と延段の施工に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 飛石を打つには、配石の中心線を決定したら、始点となる踏込みの石、次に終点となる踏止石、次に分岐点となる踏分石を置く。その後、間の石を、その中心線に石の中心を合わせながら、置いていく。
- (2) 飛石の間隔は石の形状、大きさにより定まるが、一般に 10 cm 程度を目安とし、合端は曲がりや凹凸を合わせ、石と石がよくなじむように置いていく。
- (3) 延段の石を敷くには、まず隅に当たる部分に角のきいたやや大きめの石を選んでしっかりと決め、この角石になじませるよう縁に当たる部分に石を添え、次第に中央に向けて敷き詰めていく。
- (4) 延段の天端の高さは、延段の幅ともかかわるものであり、幅の狭い場合は 3～5 cm 程度、幅の広いものでも 10 cm どまりとするのが一般的である。

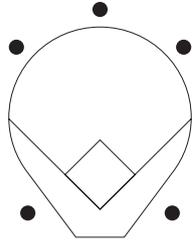
〔問題 20〕 運動施設に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 野球場のホームベースの方位を競技者を主体とするために本塁を北にとり、外野の排水勾配を塁線から外周に向かって 0.4 % とした。
- (2) 硬式テニスコートの長軸の方位を南北方向から北西～南東方向へやや振るようにし、排水勾配を一方のサイドラインから他方のサイドラインへ片流れに 0.5 % とした。
- (3) サッカー場の長軸の方位を南北に、メインスタンドを東側にとり、フィールドの排水勾配を中心から周辺に向かって 0.8 % とした。
- (4) 陸上競技場の長軸の方位を南北にとり、走路の排水勾配を横断方向ではフィールド側に 1.0 % とした。

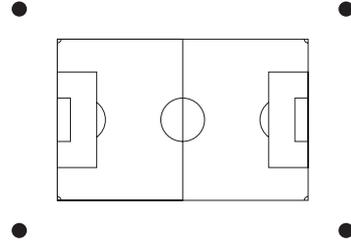
〔問題 21〕 公園内に設ける運動施設に配置する照明器具の位置として、**適当でないものはどれか。**

(●：照明器具の位置を示す。)

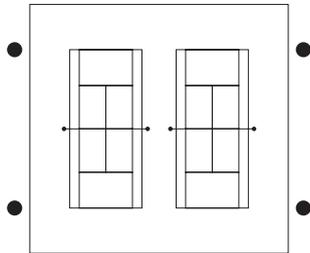
(1) 野球場



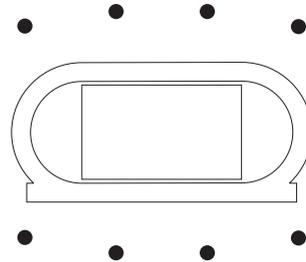
(2) サッカー場



(3) テニスコート (2面並列配置)



(4) 陸上競技場



〔問題 22〕 公園の遊具に関する記述のうち、**適当でないものはどれか。**

- (1) 頭部又は首が挟まって抜けなくなならないよう、複合遊具の上向きV字型開口部の角度を 60° とした。
- (2) 指先が抜けなくなならないよう、高さ1mの位置に設けた穴の直径を2cmとした。
- (3) 足が挟み込まれないよう、歩行用の平坦な通路の床面の隙間を2cmとした。
- (4) 頭部及び胴体が挟み込まれないよう、落下防止柵の隙間を8cmとした。

〔問題 23〕 日本庭園における滝と流れの役石に関する次の記述の（A）～（C）に当てはまる語句の組合せとして、**適当なもの**はどれか。

「（A）は、滝の役石で、水落石の両側に据える。また、水落石は、枯れ滝では（B）ともいい、水の落ちるのをかたどる。（C）は、流れの役石で、水面を隠れて水を盛り上げ瀬落としなどをつくる。」

- | | （A） | （B） | （C） |
|-----|-----|-----|-----|
| (1) | 脇石 | 鏡石 | 水越石 |
| (2) | 横石 | 清浄石 | 水越石 |
| (3) | 横石 | 鏡石 | 底石 |
| (4) | 脇石 | 清浄石 | 底石 |

〔問題 24〕 土工に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 地山が土砂の場合の法面施工に当たっては、丁張にしたがって仕上げ面から余裕をもたせて本体を掘削し、その後人力やバックホウ等で仕上げる方法が用いられる。
- (2) 切土法面の勾配は、一般に、地山が粘性土で切土高が 10 m 以下の場合、標準値の 1 : 0.8 ~ 1 : 1.2 を参考として、切土部の調査及び用地条件等を総合的に判断して決定する。
- (3) 軟弱で崩壊しやすく、浸食防止のため早期緑化の必要がある比較的緩勾配の切土法面の植生工による保護には、一般に植生筋工が適している。
- (4) 切土の施工に当たり小段を設ける場合、排水設備を設置せず、維持管理上の問題の少ない小規模な法面のときは、法の下側に向かって 5 ~ 10 % 程度の横断勾配をつけるのが一般的である。

〔問題 25〕 コンクリートの施工に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 壁、柱等の構造物を打設する場合の打上がり速度は、30分につき1.0～1.5mとなるようにした。
- (2) 普通ポルトランドセメントを用いたコンクリートの打込み後、日平均気温が10℃以下の日が続いたので、湿潤養生を5日で終了した。
- (3) 外気温が30℃であったので、暑中コンクリートとして施工し、打込み時のコンクリートの温度を、35℃以下となるようにした。
- (4) 2層以上に分けてコンクリートを打ち込む場合、1層のコンクリート打込みの高さを40cmとした。

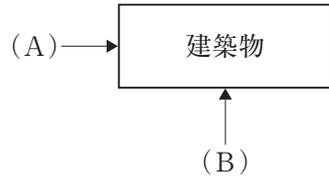
〔問題 26〕 ブロック積（石積）擁壁に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) ブロック積（石積）擁壁は、背面の地山が締まっている切土、比較的良質の裏込め土で十分な締固めがされている盛土など土圧が小さい場合に用いられる。
- (2) 水抜孔は、硬質塩化ビニルなどの材料を用い、2～3m²に1箇所割合で、排水方向に適当な勾配をつけて設けることが望ましい。
- (3) 裏込め材は、盛土部では下部を厚く、上部に向かって薄くし、切土部では、地山がよく締まっている場合は、上下等厚としてもよい。
- (4) 空積みによるブロック積（石積）擁壁では、裏込め土が比較的良質な場合は高さが5mまで用いてよい。

〔問題 27〕 排水工に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

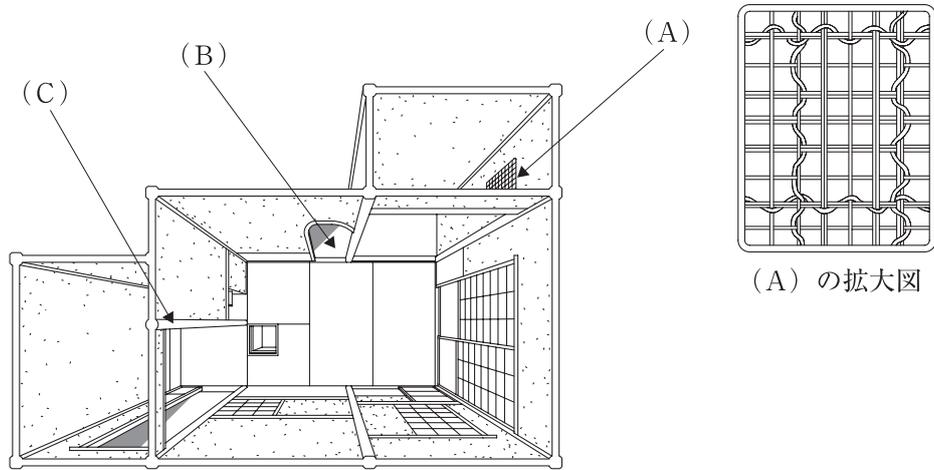
- (1) 地表勾配が急な場所において、管底差が80cmの上流管と下流管を接合する場合は、一般に副管付きマンホールを用いる。
- (2) 内径300mmの排水管の直線区間においては、一般にマンホールを150m間隔で設ける。
- (3) 開渠の場合は、適当な余裕高をもって所定の計画流量を流せるように断面の大きさを決定するが、U型側溝は、一般に80%水深とする。
- (4) 路面の雨水排水柵は、園路の形態や、側溝の排水能力等によって異なるが、一般に20～30m間隔で設ける。

〔問題 28〕 建築物を下図に示す2方向から見た場合の「屋根の形状（模式図）」と、その「形式」を表す語句の組合せとして、正しいものはどれか。



- | [屋根の形状 (模式図)] | | [形式] |
|---------------|-----|----------|
| (A) | (B) | |
| (1) | | —— 陸屋根 |
| (2) | | —— 切妻屋根 |
| (3) | | —— 入母屋屋根 |
| (4) | | —— 寄棟屋根 |

〔問題 29〕 下図に示す茶室（概念図）の（A）～（C）の名称の組合せとして、**適当なもの**はどれか。



（A）の拡大図

- | | （A） | （B） | （C） |
|-----|-----|-----|-----|
| (1) | 下地窓 | 給仕口 | 中柱 |
| (2) | 書院窓 | 給仕口 | 床柱 |
| (3) | 下地窓 | 茶道口 | 床柱 |
| (4) | 書院窓 | 茶道口 | 中柱 |

〔問題 30〕 公園内の電気設備工事に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 地中配線ケーブルを建物外壁に沿って立上げる際、地表上 2.5 m の高さまで保護管に収め、保護管の端部には雨水の浸入防止用カバーを取り付けた。
- (2) 地中電線路を車両その他の重量物の圧力を受けない場所で直接埋設する際、土冠を 50 cm とした。
- (3) 地中において低圧電線と弱電流電線を交差させる際、40 cm 離して布設した。
- (4) 使用電圧 200 V の高圧水銀灯の安定器を照明器具と別置きで設置する際、安定器外箱に D 種接地工事を施した。

〔問題 31〕 給水工事に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 配水管から給水管を取り出す際、配水管の管体強度を減少させないように、他の給水管の取付け位置から 20 cm 離して取出しを行った。
- (2) 鳥居配管の形状となる箇所に、通水障害となる管内の空気溜りを生じさせないように、空気弁を設置した。
- (3) 管の埋戻し時において、将来掘削する場合に管の位置が分からず損傷させる事故を防ぐため、管の上部から 30 cm 上方の位置に埋設管明示シートを埋設した。
- (4) 給水管を水路を横断して設置する際、水路の増水時等に給水管が破損するのを避けるため、給水管を水路の下に埋設した。

〔問題 32〕 「公共工事における工事費積算基準」に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 現場管理費には、現場労働者の安全・衛生に要する費用及び研修訓練に要する費用が含まれる。
- (2) 共通仮設費には、交通誘導員及び機械の誘導員の配置に要する費用が含まれる。
- (3) 現場管理費には、標識、防護柵、保安灯などの安全施設類の設置、撤去、補修に要する費用が含まれる。
- (4) 共通仮設費には、現場事務所の敷地の借上げに要する費用が含まれる。

〔問題 33〕 「公共工事標準請負契約約款」に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 工事目的物及び工事材料等に関する火災保険については、設計図書に定めるところにより請負者が契約しなければならない。
- (2) 請負者は、工事の施工に当たり、設計図書に示された自然的又は人為的な施工条件と実際の工事現場が一致しないことを発見したときは、その旨を直ちに監督員に通知し、その確認を請求しなければならない。
- (3) 請負者は、天候の不良により工期内に工事を完成することができないときは、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。
- (4) 現場代理人は、工事現場に常駐し、その運営、取締りを行うほか、請負代金の請求及び受領に係る権限を行使することができる。

〔問題 34〕 次の（イ）～（ニ）の記述の施工計画を作成する場合における検討の手順として、**適当なもの**はどれか。

- （イ） 施工順序及び施工方法の大綱について、技術的検討と経済的比較をして基本方針を決定する。
- （ロ） 契約条件及び現場諸条件を十分に理解するため事前調査を行う。
- （ハ） 工事全体を包括した工種別詳細工程を立案する。
- （ニ） 労務、機械、材料などの調達・使用計画、輸送計画を立てる。

- (1) （イ） → （ロ） → （ハ） → （ニ）
- (2) （イ） → （ロ） → （ニ） → （ハ）
- (3) （ロ） → （イ） → （ハ） → （ニ）
- (4) （ロ） → （イ） → （ニ） → （ハ）

〔問題 35〕 建設副産物の適正処理に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 建設廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分について、一括して産業廃棄物処分業者等と契約しなければならない。
- (2) 元請業者は、産業廃棄物管理票（マニフェスト）について、運搬、処分受託者から返送された写しを5年間保存しなければならない。
- (3) 建設発生木材については、工事現場から最も近い再資源化施設までの距離が50 kmを超える場合、再資源化に代えて縮減（焼却）することができる。
- (4) 元請業者は、CCA 処理木材について、分離・分別が困難な場合は、CCA が注入されている可能性がある部分を含めてこれをすべて CCA 処理木材として適正な焼却又は管理型処分場で埋立処分することが必要である。

〔問題 36〕 建設機械に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) バックホウは、地盤より低い所を掘削するのに適した機械で、硬い土質をはじめ各土質に適用でき、また、仕上がり面が比較的きれいで、垂直掘りや底ざらいなど正確に掘削することができる。
- (2) ロードローラは、主として、盛土表層や路床、路盤などの締固めに使用され、高含水比の粘性土あるいは均一な粒径の砂質土に適している。
- (3) レーキドーザは、表土を残して草木、樹根などを処理するのに適しており、レーキの刃の間隔は、樹木の大きさや土質により決まるが、粘性土の場合には特に狭過ぎないものを使用する。
- (4) ブルドーザは、締固め能率が悪く施工の確実性も低いため、本来締固め機械として使用することは望ましくないが、通常の締固め機械では使用困難な土質や法面などの締固めに使用される場合がある。